



初夏の後援会行事楽しむ

参院選に向け1人区での統一候補続々！



7月の参院選1人区は、この時点で28名の統一候補が決まり、野党共闘と安倍自公政権との一騎打ちになる歴史的な選挙戦が予想されます。その後、各市町の議員が地域の状況を報告し、各地域

野党共闘で政治は変えられる！ 今までにないワクワクした選挙！



「戦争法廃止 2000万人統一署名」の夕張目標1800筆を5月3日までに超過達成した夕張では、くまがい桂子市議が後援会とともに7月の参院選に向けて、街頭からの政策の訴えに力を注いでいます。

くまがい市議は、まず、安倍政権が狙っている自衛隊への「かけつけ警護」の任務が『狙撃』や『射殺』まで想定しており、戦後初めて『殺し・殺される』危険性を訴え、札幌の弁護士に寄せられる「自衛隊員や家族の不安・不満」の新聞記事などを紹介し、憲法で不戦を誓っているにもかかわらず戦争に発展しかねないことを訴えました。

次に、4月の衆議院北海道5区補欠選挙の結果、参議院選挙でも野党の共闘が広がり、衆議選でも野党共闘の方向が確認され、野党共闘で政治は必ず変えられることを訴え、「安倍政権を倒し平和な日本、若い人も高齢者も安心して生活し、希望を持って働ける日本に変えていきましょう！」と訴えると、「通行中の車等から何人もが手を振るなど多くの反応があり、多数の人々が安倍政権の退陣を望んでいることが実感できました」との感想を語っていました。

5月22日、共産党南空知後援会の「さくらまつり」が岩見沢公園で開催されました。昨秋の「味覚まつり」に続き、4市4町の後援会員が、交流を深め合いました。熊谷泰昌共同代表に続き、上田久南空知地区委員長の挨拶があり、森つねとさ

5区は全国の先陣を切って野党統一候補を擁立した重要な選挙でした。7月の参院選1人区は、この時点で28名の統一候補が決まり、野党共闘と安倍自公政権との一騎打ちになる歴史的な選挙戦が予想されます。その後、各市町の議員が地域の状況を報告し、各地域

5区補欠選挙で、選対本部長を務めた、石狩地区委員長の鈴木龍次さんが、選挙戦の奮闘ぶりを紹介しました。

若い吉岡建二郎美唄市議の「アベノゲン」(アレルギーの元)から、回復するために、参議院選を奮闘しようとの元気がいっぱい掛け声で乾杯しました。晴天の会場、後援

晴天のさくらまつり 夕張から27名参加



会員が、ジンギスカン料理などを楽しみました。お楽しみ抽選会で

は、夕張から4名の当選者がでて、歓声が上がりました。うたごえコーナーでは、ギターの伴奏で、大いに盛り上がりました。

最後に、岩見沢向後援会の占部喜雄さんが挨拶の中で、沖繩の米軍関係者による悲惨な事件を紹介し、「沖繩を返せ」の歌をうたい、参議院選での奮闘を誓った。「ガンバロー！」で閉会となりました。



元氣と勇気のでる「さくらまつり」でした。

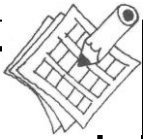


共産党市委員会とは、あとひと月後に迫った参院選の立て看板を市内全域に設置し、野党共闘が進む選挙情勢を有権者に伝えようと取り組んでいます。

現在、志位委員長の「力あわせ未来をひらく」と訴えるものと、北海道選挙区（定員3）の当選をめざす森つねと予定候補が志位委員長とならんでいる看板があわせて約140本設置されています。

今後、戦争法廃止、消費税増税阻止、原発再稼働反対、労働法改悪反対などの政策ポスターも追加される予定です。

立て看板市内全域に



くずさんの 夕張歴史散歩(48)

暗い大正のはじまり

大不況と連続する重大災害で暗く迎えた大正ですが、これを救ったのは、またしても戦争でした。一九一四年（大正3年）七月、ヨーロッパで発火し世界を巻き込んだ第一次世界大戦です。

大正の天祐・第一次世界大戦

当時、第一次護憲擁護運動で、いわゆる大正政変が起き桂内閣が倒れます。しかし大戦により、折からの減税を求める声も労働運動も、「挙国一致」の名のもとに眠らされてしまいます。

いつの時代も戦争は、庶民・労働者の犠牲の上に行われています。早くも同年八月、日本はドイツに宣戦布告し参戦、中国の山東半島はじめ南洋に進出（侵略）します。

シベリア出兵と米騒動

この大戦中に一九一七年（大正6年）ロシアで革命が起きます。しかし英・米・仏と日本がシベリアに出兵し干渉します。

折からの米価高騰と戦争の影響下、一九一八年（大正7年）新潟県魚津漁港の「オカカ出ませい」のかけ声で「女一揆」が起こり、世にいう「米騒動」が瞬く間に全国に波及します。

これを転機に、抑えつけられていた人びとは団結し、労働者はストライキで立ち上がりります。先に紹介したメーデーが一九二〇年（大正9年）初めて開催されます。

炭鉱事故続く

この大戦景気により石炭産業も活気を取り戻し、再び生産拡大と開発・拡張します。

しかし戦争が終わるや大戦景気の反動から、日本全国に不況の大波が押し寄せ、株価は大暴落し、経済恐慌へと日本経済は大混乱におちいります。

こうした背景のなかで、大正の初めから半ばにかけて夕張炭山は残酷な事故が連続します。



いわぶち友「かけある記」
日本共産党福島県委員会常任委員
（参議院比例予定候補）「北海道・東北」
いわぶち友

響きあう野党共闘と共産党の躍進

参議院選挙まで一カ月を切りました。全国三十二の一人区すべてで野党統一候補が誕生しようとしています。

この間、東北各地で統一候補と訴えています。私が初めて立候補したのは二〇一〇年の参議院福島選挙区。その時ライバルだった民進党の現職が統一候補に。まさかこんな日が来るとは思ってもいませんでした。宮城県演説会では、「比例は共産党」とまで言うてくれ、秋田県では二〇人程の「つどい」に一緒に参加。山形県の街頭演説では野党統一候補が、「間違った政治にブレーキをかけよう」と訴え、小池晃書記局長の話しに何度も「そうだ！」と声をあげました。心が通い合い、響きあう共闘になっていると感じています。

同時に、日本共産党への期待も寄せられています。宮城県の演説会で訴えてくれた元町村会長の鹿野文永さんは、上智大学の中野晃一さんが共産党を暖かい敷布団だと言ったことに触れながら、「自分が九条を守る運動を始めると、陰に陽に力添えしてくれた。私を鍛えてくれた敷布団でもありました」と語り、国民連合政府の提案に感動したとも話してくれました。

参議院選は野党共闘の成功、日本共産党の躍進で国民連合政府を実現する選挙です。道内キャラバンも二巡をやりぬき、いよいよ本番目前です。次にお会いできるのは志位委員長を迎える札幌での六月五日の演説会。最後まで頑張りぬきます。